

(2) 実施学年と担当教師

第17表に、奉仕担当による授業を受けている学年（出向先学年）の比率を示した。

実施学年は、小・中・大のいずれの規模の場合も、第5・6学年が高率を示している。このような傾向は、奉仕担当に限らず、**㊦**学級担任外専科的担当、**㊧**学級担任専科的担当、**㊨**交換担当でも見られた傾向であるが、奉仕担当の場合は、いっそうはっきりしている。

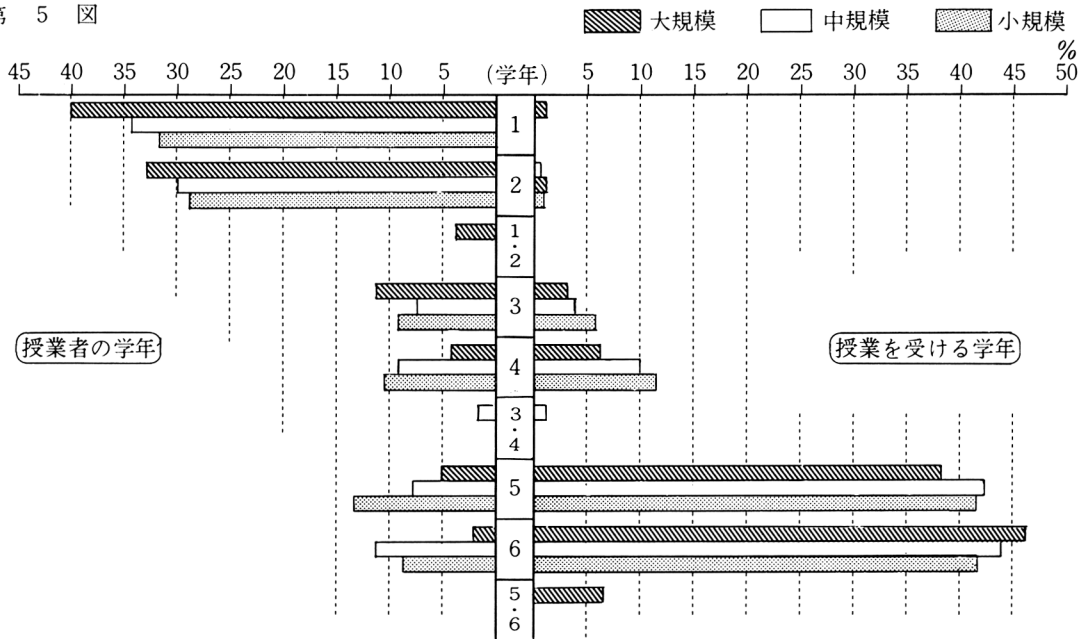
また担当教師をみても、学級担任者による授業と学級担任外教師による授業の割合は、前者が70%、後者は30%を占めている。また前者の内容を、担当者の原学級（年）と、授業を受ける学級（年）の関係でみると、第5図のような実態である。

第17表 奉仕担当の学年

%

規模 学年	～6	7～17	18～	全 体
1 年	0.3	0.2	・	0.2
2 年	1.1	1.4	0.6	1.1
1・2	0.5	/	/	0.2
3 年	5.9	5.8	5.2	5.7
4 年	7.4	15.5	13.4	11.6
3・4	3.6	/	/	1.5
5 年	34.6	37.7	41.1	37.2
6 年	39.9	39.4	39.7	39.7
5・6	6.7	/	/	2.8

第 5 図



(3) 実施教科

第18表によると、全教科、道徳にわたって実施されているが、家庭科と音楽科の比率がきわめて高く、他の教科はびびたるものである。また学校規模による相違も認められない。

第6図は、学級担任の担当する教科の割合と学

級担任外教師による担当教科の割合を示したものである。前者の場合は、家庭科・音楽科に集中しているのに対し、後者の場合は、社会科・理科・体育科などにもおよび、各教科に比較的平均した担当の傾向を示している。この傾向は小・中・大規模に共通している。